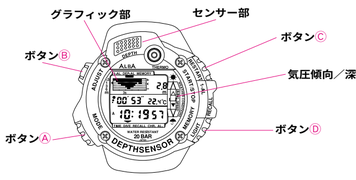
■ 各部の名称とはたらき



［ご注意］このイラストは 水深・水温計測表示 において計測中表示になっています。

■ 表示の切り替えとその機能について

・この時計は、５つの主な表示を持っており、それぞれの表示毎の様々の機能を備えています。
①ボタンAを押すと、表示が切り替わります。表示の下側に点灯する（▬）マークが各表示の示します。

表示の名称	主な機能
時刻・気圧表示	時刻・カレンダー 気圧グラフ、気圧値、気圧傾向 ※ワンタッチアラーム表示へ切替
水深水温計測表示	水深計測機能、深度グラフ表示 水温計測機能、潜水メモ
最大深度・潜水メモ表示	最大深度などのデータを、 リコール
ストップウオッチ表示	ストップウオッチ機能 オートスタート機能
時刻アラーム表示	デイリーアラーム機能 時報機能

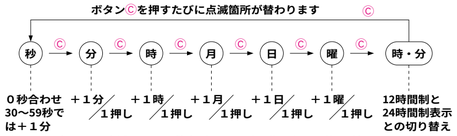
TIME → A → D ライト → DIVE → A → D ライト → RECALL → A → D ライト → CHR. → A → AL. → D ライト → TIME

■ 時刻・カレンダーの合わせかた

① 水深水温計測表示 以外の表示からボタンAを引き出すことで、時刻カレンダー合わせ 状態になります。
〈例〉時刻・気圧表示からの操作

［ご注意］
・水深・水温計測表示ではボタンAを引い出しても表示は切り替わりません。
・水中や水が付いた状態でボタンAを引き出さないでください。故障の原因となります。

②ボタンCを押して合わせたい箇所を点滅させ、ボタンDで合わせます。



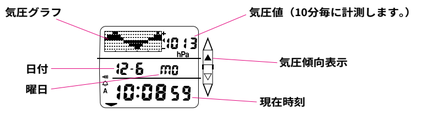
ボタンDを押すと、点滅している数字が、１つずつ進みます。（押し続けると早く進みます）

秒合わせについて
・「秒」を点滅させ時報に合わせてボタンDを押すと、「00秒」に合います。
・「秒」が30～59秒の時、ボタンDを押すと「分」が１分繰り上がって「00秒」に合います。

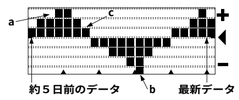
③合わせ終わったら、ボタンAを元の位置に押し込んでください。
ボタンAを引き出す前の表示に戻ります。（この場合は時刻・気圧表示に戻ります）
［ご注意］ボタンAを引き出した状態では気圧の計測を行いませんので、時刻・カレンダー合わせ が終わったら、ボタンAを必ず元の位置へ戻してください。

■ 時刻・気圧表示の使いかた（気圧グラフ、気圧傾向、気圧値など）

・気圧グラフが５日分の気圧変化を表示します。
・気圧傾向表示が気圧の変化傾向を示し、天気予測の助けになります。
・気圧値が分かります。

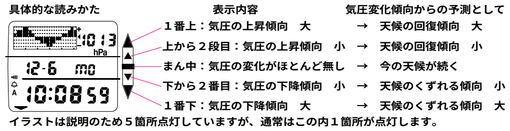


［気圧グラフの読みかた］
・６時間毎の約５日分の気圧変化をグラフィックに表示します。
・この上昇下降傾向から、今後の変化傾向や天気予測の一助となります。



１日４回６時間毎に気圧変化を上下３つのドット（点：■マーク）で表示します。
たとえば、上図グラフのa～cはそれぞれ次のように読みます。
a：気圧が上昇しつづけていたことを表します。（＋３のデータ）
b：気圧が下降しつづけていたことを表します。（－３のデータ）
c：比較的安定して変化がなかったことを表します。（＋１のデータ）
上下のドット数はその変化の度合いを示すものです。
［ご注意］
１．気圧グラフは気圧値そのものを示すものではありません。あくまでも気圧の変化度合を示すもので、６時間に１回その間の気圧変化をグラフに表したものです。
２．場所の移動に伴う、気圧変化を自動的に補正しますので、移動による影響はグラフには表われませんのでご注意ください。

［気圧傾向表示の読みかた］
・気圧の変化を知るとその後の天気の予測がある程度できるといわれています。
・時刻・気圧表示 において右端に表示される５段階の表示が気圧傾向表示です。

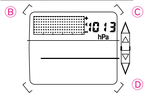


イラストは説明のため５箇所点灯していますが、通常はこの内１箇所が点灯します。

気圧傾向表示についての注意事項
１．この気圧傾向表示は、あくまでも気圧の変化を計測表示しているものです。天候の変化をすべて予測できるものではありません。
２．特に夏の夕立ち（雷雨）や冬の日本海側を中心とした雪など、気圧傾向には表れない、または、全く逆の傾向表示をする場合もあります。
３．地域または、季節によっては特殊な気象変化がありますので、気圧傾向表示による天候予測が不可能の場合があります。

気圧値についての注意事項
１．気圧値は気圧配置の変化で同じ場所にいても変化します。
２．飛行機内やビル内など圧力調整された場所およびトンネル内を走行中の列車内や自動車内、または温度変化が大きい場所では正しく気圧が計測できない場合があります。
３．気圧計測値が600～1050hPaの範囲を越え、範囲外の気圧を感知した場合、次のように表示します。
「LohPa」「HihPa」
４．水中あるいは、水圧がかかった場合などは、気圧が正しく計測できません。異常な数値指す場合がありますが、水圧の影響がなくなり次の気圧計測があると元に戻ります。水滴の影響により、「ErrhPa」（エラー）、「HihPa」などの表示がでる場合があります。水分をよく拭き取り、センサー部の穴に入った水滴を吹き飛ばしてください。（時刻・気圧表示）
５．特に水圧や水分の影響が考えられない場合であっても、次の表示が出る場合は故障の可能性がありますので、「取扱店」もしくは「サービスセンター」へご相談ください。
「ErrhPa」「LohPa」「HihPa」
このとき水深計測のも異常が発生する可能性がありますので、水深計測はしないでください。
６．気圧値がズレていると考えられる場合、ボタン操作によって調整することができます。しかし、気圧計として信頼のおける他の測定器がある場所でのみ使用される以外は、絶対に行わないでください。

気圧値の調整のしかた
① 時刻・気圧表示 においてボタンAを引き出し 時刻・カレンダー合わせ 状態にします。
②ボタンBを押し続けると、気圧値が点滅し、気圧調整 状態になります。
③ボタンCとDを押して調整します。
ボタンC：1hPa増えます。
ボタンD：1hPa減ります。
④調整が終わったら、ボタンAを押し込んでください。



［ご注意］１．気圧調整状態で１～２分ボタン操作がない場合、時計・カレンダー合わせ に戻ります。
２．この気圧値調整は、電池交換時にキャンセルされます。

■ 水深・水温計測表示の使いかた（水深・水温計測、潜水メモ、深度アラーム）

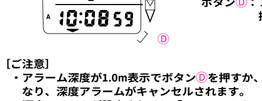
・水深は0.1m単位で、40mまで計測できます。計測は３秒毎に行います。（最初の20秒は１秒毎）
・水温は0.1℃単位で、－10℃～＋50℃まで計測できます。計測は３秒毎に行います。
・最大深度や深度グラフで潜水の様子を表示でき、最大５個までメモとして残せます。
・セットした深度を感知するとアラーム音を鳴らすことができます。
・時間計測は最大10時間まで計測可能です。１時間までは秒単位で計測します。

こんな使いかたができます

水深・水温計測表示での使用例
・この表示での機能をご理解していただくため、使用例で説明します。
＜例＞スキンダイビングを楽しむ。
行動内容
①海に入る前に水深・水温計測表示にする。
②海に入り、３回潜る。
１回目：２～３ｍ
２回目：４～５ｍ　あらかじめセットした深度アラームが鳴り5.0mに達したことが分かった。
３回目：３～４ｍ
③しばらく休憩するため岩場に上がり、今潜った様子をメモに残す。休憩後、再度スキンダイビングを始める。（再スタート）
④夕方、家に戻り今日のスキンダイビングを振り返る。岩場でメモした内容をみる。
スキンダイビングを始めた時刻や最大深度・潜水グラフでその様子を表示できる
また、今まで一番深く潜った記録が自動的にメモリーされていて、「7.2m」であり、それが先週潜ったものとわかる。

●具体的な使いかた
・潜る前に表示を切り替え、深度アラームをセットしたい場合はここでセットしてください。（→「深度アラームの使いかた」参照）

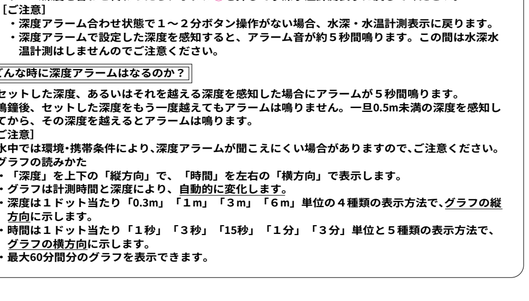
①ボタンAを押して 水深・水温計測表示 にしてください。



水深・水温としての計測が始まります。
水深計測を始めてからの時間計測もスタートします。

②この表示に入るとすべての計測がスタートしますので、今から計測をしたいときにはボタンCを押してください。
各計測が再スタートします。（計測時間は０秒から再スタートします）

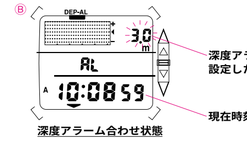
＜水中での表示内容と主なボタン操作の機能について＞



※40.0mを越える深度を感知した場合は現在深度の表示が「－－．－m」となります。
ボタン操作はボタンDのみ有効です。

［ご注意］
・ボタンCを押して再スタートすると、それまで計測していた時間と深度グラフが消去されます。
・水中（現在深度0.5m未満の時）で、ボタンA～Cを押してしまうと、その時の深度を０mとして、計測してしまいますのでご注意ください。
ボタンA：表示の切り替え
ボタンB：深度アラームの設定
ボタンC：水深計測の再スタート
以上の操作は、絶対、水上（深度０m）で行なってください。
・水中などで現在深度の表示が「0.5m」以上を示している場合、ボタン機能はライト用ボタンDしか効きません。
③計測を終了したい場合は、ボタンAで表示を切り替えてください。
［ご注意］
・潜水メモとして残したい場合は、表示を切り替える前にボタンDを押してください。（→「潜水メモのしかた」を参照）
・ボタンAを押して 最大深度・潜水メモ表示 に切り替えた場合、あるいはボタンCを押して再スタートさせた場合、それまでの表示していた計測時間や潜水グラフは消去されます。

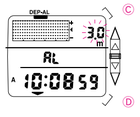
●深度アラームの使いかた
・あらかじめセットした深度を感知すると、アラームを鳴らすことができます。
・0.1m単位で1.0m～40.0mの設定が可能です。
① 水深・水温計測表示 にてボタンBを押すと、深度アラーム合わせ状態になります。



深度グラフ、計測時間、水温表示が消え、深度表示が点滅します。

［ご注意］
・深度アラーム合わせ状態になると、計測をしていた水深・水温・時間計測を中止します。
ボタンBを押して表示を戻すと、再スタートになります。
・この深度アラーム合わせは0.5m以深の水中ではできません。また、0.5m未満の水中で行った場合、その時の水深を「０m」と測定してしまいますので、ご注意ください。

②ボタンC、Dを押してアラームを鳴らしたい深度に合わせます。



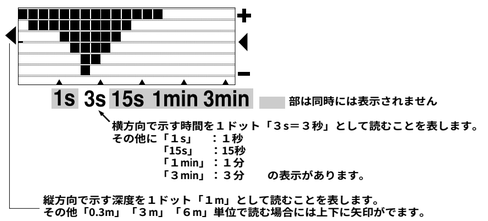
ボタンC：１回押すごとにアラーム深度が0.1m増えます。押し続けると早く増えます。
ボタンD：１回押すごとにアラーム深度が0.1m減ります。押し続けると早く減ります。

［ご注意］
・アラーム深度が1.0m表示でボタンDを押すか、ボタンC、Dを同時に押すと「－－．－m」となり、深度アラームがキャンセルされます。
・深度アラームが設定されると「DEP－AL」にマークが点灯します。
③アラーム深度を合わせ終わったら、ボタンBを押して水深水温計測表示に戻してください。
［ご注意］
・深度アラーム合わせ状態で１～２分ボタン操作がない場合、水深・水温計測表示に戻ります。
・深度アラームで設定した深度を感知すると、アラーム音が約５秒間鳴ります。この間は水深水温計測はしませんのでご注意ください。

どんな時に深度アラームはなるのか？
・セットした深度、あるいはそれを越える深度を感知した場合にアラームが５秒間鳴ります。
・鳴難後、セットした深度をもう一度越えてもアラームは鳴りません。一旦0.5m未満の深度を感知してから、その深度を越えるとアラームは鳴ります。
［ご注意］
水中では環境・携帯条件により、深度アラームが聞こえにくい場合がありますので、ご注意ください。

●グラフの読みかた
・「深度」を上下の「縦方向」で、「時間」を左右の「横方向」で表示します。
・グラフは計測時間と深度により、自動的に変化します。
・深度は１ドット当たり「0.3m」「１m」「３m」「６m」単位の４種類の表示方法で、グラフの縦方向に示します。
・時間は１ドット当たり「１秒」「３秒」「15秒」「１分」「３分」単位と５種類の表示方法で、グラフの横方向に示します。
・最大60分間分のグラフを表示できます。

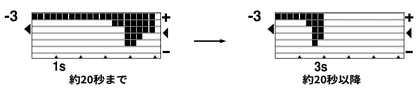
＜表示例＞



［ご注意］この深度グラフはあくまでも時間に対する深度の目安となるものです。グラフから深度を正確に読み取ることはできませんのでご注意ください。

深度グラフは自動的にグラフの形を変えます
・「時間」と「深度」のそれぞれのドットが、表示できなくなるところへ達すると、１ドット当たりの表示単位を変えてグラフを書き換えます。
・すべてが自動で行われるため、それぞれを選択することはできません。

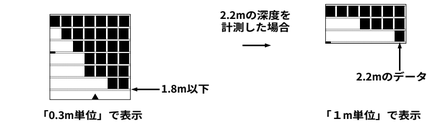
＜横方向（時間）のグラフ変化について＞
・初め１ドットを「１秒単位」で表示し、約20秒で１ドットを「３秒単位」に変え表示するようになります。このように、右端にドットが達すると１ドットの表示単位を長くし、全体を圧縮したグラフに書き換え表示します。
・この時「３秒分の３本の深度データ」を「１本の深度データ」にするため３本の中で一番深いデータを代表値として表示する処理がされます。
・この処理は「３秒」→「15秒」→「１分」→「３分」のそれぞれの変更の時にも行われます。
＜例＞１ドット「１秒単位」から「３秒単位」へ変わる場合



・表示単位が「３分」になり、グラフが右端に届く時つまり計測時間が60分を越えると、グラフへの新しいデータの書き込みを中止します。この時でも水深計測は継続しています。

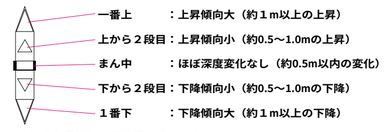
［ご注意］
・たとえば１ドットの表示単位が「３秒（15秒、１分、３分）」の場合、新しいデータがグラフに書き込まれるのも「３秒（15秒、１分、３分）」毎になります。
・水深計測の周期は、最初の20秒間は１秒間隔で、その後は常に３秒間隔になります。
・深度グラフは時間により、刻々と圧縮されますので、潜水メモで残したい場合は早めに取ることをお勧めします。

＜縦方向（深度）のグラフ変化について＞
・初め１ドットを「0.3m単位」で表示し、６ドット分の「0.3m」×６＝1.8mを越えるデータが入ると、１ドットを「１m単位」に変え表示するようになります。このように下端にドットが達すると１ドットの表示単位を大きくし、全体を圧縮したグラフに書き換え表示します。
・「1.8m」を越えた後は、「６m」「18m」「36m」をそれぞれ越えた場合にグラフの書き換えが行われます。
＜例＞１ドット「0.3m単位」から「１m単位」へ変わる場合



［ご注意］
・グラフは一番深いデータで１ドットの表示単位が決まります。一旦縮んだグラフがそのままです。

●深度傾向表示の読みかた（DIVING SPEED）
・潜水中に約３秒前との深度変化を表示します。
・５段階の表示で深度変化を示します。



［ご注意］あくまでも目安として表示しています。

■ 水深・水温計測上の注意事項

＜水深計測について＞
・０℃～＋40℃の範囲でご使用ください。
・電池寿命切れ予告「▰」マークが点滅、点灯中での水深計測は行わないでください。
・40m以深は「－－．－m」表示になります。
・水深・水温計測表示では時刻アラーム・ワンタッチアラーム・時報は鳴りません。
・この水深計測が海水（比重1.025）を基準に深度を計算しておりますので、淡水などにおいて使用した場合は、実際の深度より浅く表示されます。
・ 時刻・気圧表示 の気圧値が異常値（Lo、HI、Err）を示した場合、水深計測が正しく行われませんので、水深計測としてご使用にならないでください。
・携帯温度と水温とに極端な差（直射日光下に放置された時計を水中に入れる場合など）がある場合には、正確な水深計測はできません。ご使用の前に時計を水に約５分程度浸してから 水深・水温計測表示 に切り替えてご使用ください。
・ 水深・水温計測表示 で長時間携帯した場合、より正確な水深を計測するために、一旦表示を切り替えるか、ボタンCを押して再スタートさせてください。
・大幅な気圧・温度変化にあるところ、水深計測保証温度範囲（０℃～40℃）外で使用した場合、深度表示に狂いが出るばかりでなく、陸上においても「0.5m」以上を表示する場合があります。この時ボタン操作ができなくなりますので、ボタンA、B、Cを同時に押して、時刻・気圧表示 に戻してください。
・センサー部に入ったゴミ・砂等の異物は真水で洗い流してください。先の尖った物で触れると故障の原因になります。洗い流せない場合は、販売店、またはサービスセンターにご相談ください。
・センサー部にガソリン・アルコールなどの薬品が触れると、故障の原因になりますのでご注意ください。
・ボタンDによるライト点灯中と深度アラーム鳴鐘中は、水深計測はしません。
・潜水中は、ボタンA B C Dあるいは A B C の同時押しは決してしないでください。システムリセットがかかったり、水深計測を中止することになります。
・深度表示が点滅している場合は、必要な操作に間違いがあった場合がありますので、もう一度 水深・水温計測表示 に切り替え直してください。
・計測時間が60分を越えてから、0.5m未満の深度が60分続くと、自動的に 時刻・気圧表示 に戻ります。

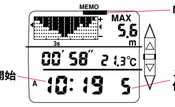
＜水温計測について＞
・この時計の温度計は水温を計測するために、設計されております。
・陸上のおいて、 水深・水温計測表示 で表示される温度は、気温に近いものになりますが、体温の影響を受けているので、腕から外して実際の気温を測るには約20分かかります。
・水温計測範囲（－10℃～＋50℃）外の温度を感知した場合、下図のような表示がされます。
このような温度に時計を放置すると故障の原因になりますので、ご注意ください。
Lo ℃ ＜－10℃未満＞
HI ℃ ＜＋50℃を越える＞

■潜水メモのしかた［MEMORY］

・深度グラフ、最大深度、水温、潜水時間、日付け、時刻などがメモリーできます。
・潜った後、その潜水の最大深度や水温などを、潜水メモとして残すことができます。

水深水温計測表示で潜った後に以下の操作をします。
→水深計測表示での使いかたは「水深・水温計測表示の使いかた」を参照

●水深水温計測表示で潜った後、深度表示が「0.5m」未満の数値を表示している状態でボタンⒹを押してください。



MEMOマーク点滅
潜水開始時刻
メモナンバー（No.５）
何番目にメモしたかを示すナンバーです。

表示全体が点滅して「潜水メモ」したことが分かります。

［ご注意］
・深度が「0.5m」以上の数値を表示している場合、ボタンⒹは表示のライトとしての機能のみ働き、潜水メモはできません。
・計測時間は、計測スタート時刻からボタンⒹを押すまでの時間になります。
・最大５個までのメモリーが可能です。それ以上メモリーすると一番古いデータから消去されます。
・メモをする前にボタンⒸを押して再スタートさせるか、ボタンⒶを押し表示を切り替えるとデータは消えてしまいますのでご注意ください。
・深度グラフは時間により、刻々と圧縮されますので、潜水メモで残したい場合は早めにこの操作をすることをお勧めします。

■潜水メモの内容を見たいとき［RECALL］

・自動的にメモリーされた最大深度をみることができます。
・潜水メモをした内容を呼び出してみることができます。

①ボタンⒶを押して、最大深度・潜水メモ　リコール表示　にしてください。
まず「最大深度」の表示がでます。

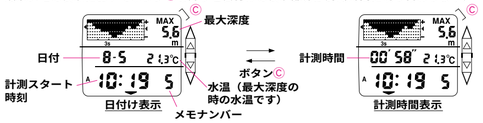
最大深度
それまで計測した最大深度であることを表わします。
月．日
水温（最大深度の時の水温です）
記録時刻

［ご注意］この最大深度は「潜水メモ」とは関係なくそれまで計測した深度の最大値を記憶するようになっています。

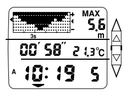
②次にボタンⒹを押すと潜水メモした内容が表示されます。
ボタンⒹを押すに、次のような順番で表示されます。（潜水メモが５個ある場合）

最大深度→潜水メモNo.５→潜水メモNo.４→潜水メモNo.３→潜水メモNo.２→潜水メモNo.１

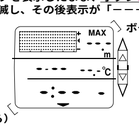
潜水メモの表示においてボタンⒸを押すと日付けの表示部分が計測時間に切り替わります。



●最大深度・潜水メモを消去するには
・最大深度のデータを消去できます。
・記録した「潜水メモ」のデータを１つずつ個別に消去することができます。
① 最大深度・潜水メモ　リコール表示 において、ボタンⒹを押し消去したいデータを呼び出してください。



②消去したいデータを表示したまま、ボタンⒸを押しながらボタンⒶを１～２秒押し続けてください。表示が点滅し、その後表示が「－－－－」表示となり、消去されたことを示します。

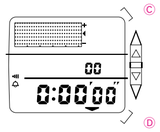


［ご注意］５つのメモリーのうちたとえばNo.３を消去した場合のように、途中のデータを消去
No.４　No.５　のデータがそれぞれ　No.３　No.４　のメモリーになりますので、ご注意ください。
③さらに消去するデータがある場合は、①の操作から行ってください。

■ストップウオッチの使いかた［CHR.］

・1/100秒単位30時間計のストップウオッチです。
・設定した時間後に、自動的にスタートするオートスタート機能があります。
５秒／10秒／30秒／１分／５分から選択して使用できます。
・スプリット機能もあります。

①ボタンⒶを押してストップウオッチ表示にしてください。



ボタンⒸ：スタート／ストップ
ボタンⒹ：スプリット／リセット

②ボタンⒸ押す毎にストップウオッチがスタート／ストップします。
使う前に０秒にリセットしてください。
・ストップ状態から、ボタンⒹを押すとリセットします。
・「SPLIT」マーク点灯で「′」「″」マークが点滅の場合は、ボタンⒸでストップさせてください。「′」「″」マークが点灯状態から、ボタンⒹを２回押してリセットしてください。

普通の測りかた
Ⓔスタート → Ⓔストップ → Ⓓリセット

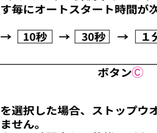
積算タイムで計測したいとき（ただし、高度はスタートからの高度差を表示します）
Ⓔスタート → Ⓔストップ → Ⓔ再スタート … Ⓔストップ → Ⓓリセット
ボタンⒺをくり返して何回でも押せます

スプリットタイムのとりかた…途中時間と高度を測る
Ⓔスタート → Ⓓスプリット → Ⓓスプリット解除 … Ⓔストップ → Ⓓリセット
ボタンⒹをくり返して何回でも押せます

１・２位のタイムのとりかた
（１位ゴール）（２位ゴール）
Ⓔスタート → Ⓓスプリット → Ⓔストップ → Ⓓスプリット解除 → Ⓓリセット
１位のタイム表示　２位のタイム表示

●オートスタート機能の使いかた
・ストップウオッチをあらかじめ設定した時間が経過した後に自動的にスタートさせることができます。
・「５秒」「10秒」「30秒」「１分」「５分」の中から選択し設定できます。
ストップウオッチ表示　においてまず０秒にリセットしてください。
①ボタンⒷを押すと、オートスタート時間合わせ状態になります。

オートスタート時間表示部が点滅します　（－′－－：オートスタート時間無しの状態）

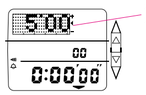


［ご注意］ストップウオッチ計測中やリセット前ではオートスタート時間合わせができません。
②ボタンⒸを押す毎にオートスタート時間が次の順番で選択できます。

５秒 → 10秒 → 30秒 → １分 → ５分 → 無し
ボタンⒸ

［ご注意］
・「無し」を選択した場合、ストップウオッチは通常のスタートとなり、オートスタート機能は効きません。
・オートスタート時間合わせ状態でボタン操作がない場合、１～２分でストップウオッチ表示に戻ります。
③オートスタート時間を選択したら、ボタンⒷを押してストップウオッチ表示に戻してください。

オートスタート時間（５分を選択した場合）



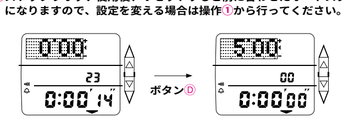
オートスタート時間表示部
オートスタート時間５分

④ボタンⒸを押すとオートスタート時間がタイマーのように減算し、０秒でストップウオッチが自動的にスタートします。（減算中の途中ストップ、再スタートもできます）

オートスタート時間表示部
ボタンⒸ：スタート／ストップ

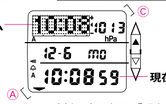
［ご注意］
・減算中に途中経過を知らせるため、残り「１分」「30秒」「10秒」の時に、「ピッ！」とまた、最後の３秒前から「ピッ、ピッ、ピッ、ピー」と鳴鐘します。
⑤スタートしてからは、通常の操作ができます。

［ご注意］
・ストップウオッチがスタートしてからもオートスタートでスタートしたことを、オートスタート時間表示部の「０′00」で確認できます。
⑥ストップウオッチ使用後、リセットすると前に合わせたオートスタート時間が設定された状態になりますので、設定を変える場合は操作①から行ってください。



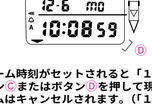
■ワンタッチアラームの使いかた（１分単位 24時間以内）[1-AL]

・ 時刻・気圧表示 からワンタッチアラーム表示を呼び出し、設定します。
・約１分先から24時間以内のアラームセットが可能です。
・現在時刻からアラーム時刻をセットできるので間近のアラームセットに便利です。
・１回鳴るとアラーム時刻は自動的にキャンセルされます。
①ボタンⒶを押して 時刻・気圧表示 にしてください。
ここで、ボタンⒸを押すと、 ワンタッチアラーム表示 になります。



ワンタッチアラームセット時刻
現在時刻

このときワンタッチアラーム時刻の表示部に「現在時刻（時・分）」が表示されます。
［ご注意］・このままではワンタッチアラームは鳴りません。
・この状態でボタン操作がない場合、１～２分で 時刻・気圧表示 に戻ります。
②ボタンⒸまたは、ボタンⒹを押してアラーム時刻をセットします。



ワンタッチアラームマーク
ボタンⒸ：１回押すごとにアラーム時刻が１分進みます。押し続けると早く進みます。
ボタンⒹ：１回押すごとにアラーム時刻が１分戻ります。押し続けると早く戻ります。

［ご注意］
・アラーム時刻がセットされると「１－AL」にマークが点灯します。
・ボタンⒸまたはボタンⒹを押して現在時刻の時分表示と一致した場合、自動的にワンタッチアラームはキャンセルされます。（「１－AL」のマークが消灯します）
③ワンタッチアラーム時刻の合わせが終わったら、ボタンⒶを押して 時刻・気圧表示 にすることをお勧めします。ボタンが押され、アラーム時刻がずれるのが防げます。
④ワンタッチアラームセット時刻になると、アラームが20秒間なります。
［ご注意］
・アラーム鳴鐘が終わると、自動的にワンタッチアラームマークが消灯します。
・ 水深・水温計測表示 では深度アラームとの誤解を避けるためワンタッチアラームは鳴りません。

鳴っているアラーム音を止めたいとき
鳴っているアラーム音を止めたい場合は、ボタンⒶ、Ⓑ、Ⓒ、Ⓓのいずれかを押してください。

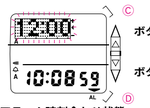
ワンタッチアラーム時刻の確認とキャンセル
・セットしてあるワンタッチアラームの時刻を確認したい。
・　〃　　〃　　を修正またはキャンセルしたい。
①ボタンⒶを押して 時刻・気圧表示 にし、ボタンⒸを１回だけ押してください。
このとき、セットしてあるワンタッチアラーム時刻が確認できます。
②ボタンⒸまたはボタンⒹを押してワンタッチアラーム時刻の修正ができます。
このとき、ボタンⒸとボタンⒹを同時に押すか、ワンタッチアラーム時刻を現在時刻の時・分表示と一致させると、ワンタッチアラームのキャンセルができます。
［ご注意］キャンセルされると「１－AL」のマークが消灯します。

■時刻アラームの使いかた（デイリーアラームと時報の設定）[AL]

・１日に１回鳴るアラームの設定ができます。（24時間に１回）
・ワンタッチアラームとは異なるアラーム音になっています。
・時報をセットすることもできます。

アラーム時刻の合わせかた
①ボタンⒶを押して時刻アラーム表示にしてください。

②ボタンⒷを押すとアラーム時刻が点滅し、アラーム時刻合わせ状態になります。
この時、ボタンⒸまたは、ボタンⒹを押してアラームを鳴らしたい時刻に合わせます。

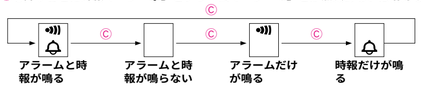


ボタンⒸ：１回押すごとにアラーム時刻が１分進みます。押し続けると早く進みます。
ボタンⒹ：１回押すごとにアラーム時刻が１分戻ります。押し続けると早く戻ります。
アラーム時刻合わせ状態

［ご注意］アラーム時刻を合わせると自動的にアラームマークが点灯します。
③アラーム時刻を合わせ終わったら、ボタンBを押して時刻アラーム表示に戻してください。
［ご注意］アラーム時刻合わせ状態で１～２分ボタン操作がない場合、時刻アラーム表示に戻ります。
④アラームセット時刻になると、アラームが20秒間鳴ります。
［ご注意］ 水深・水温計測表示 では深度アラームとの誤解を避けるため時刻アラームと時報は鳴りません。

鳴っているアラーム音を止めたい場合
あらかじめセットしたアラーム時刻になると、アラーム音が20秒間鳴ります。途中で止めたい場合は、ボタンⒶ、Ⓑ、Ⓒ、Ⓓのいずれかを押します。

時報やアラームを鳴らせたい場合、鳴らせたくない場合
①ボタンⒶを押して アラーム表示 にします。
②ボタンⒸを押すごとに時報マーク「🔔」とアラームマーク「ıl)」とが点滅あるいは消灯します。



アラームと時報が鳴る
アラームと時報が鳴らない
アラームだけが鳴る
時報だけが鳴る

合わせたい状態をマークの点灯のしかたを見て選択してください。
［ご注意］ このとき、ボタンⒸを押しつづけるとデイリーアラームの試聴ができます。（サウンドデモンストレーション）

■電池交換後のお願い（システムリセット）とご注意

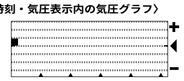
・電池交換後や、万一異常な表示（読めない表示など）になった場合、以下の操作をしてください。
時計内部のシステムがリセットされ、正常に機能するようになります。
［ご注意］この操作をすることで記憶しているデータが消えてしまいますので 電池交換にあたって ”をお読みください。

システムリセットのしかた
すべてのボタンⒶ～Ⓓを同時に３～４秒押し続けてください。
表示が一旦消え、時刻はA12：00、日付けは、１月１日になります。

ご使用前に下記の順番で操作してください。
① 時刻カレンダーの合わせ
② 気圧調整（必要であれば）　それぞれの項目をご参照ください。
③ アラームの設定

電池交換後およびシステムリセット後のご注意
・電池交換後や、システムリセット後はすべてのデータが消去されていますので、気圧グラフや気圧傾向表示が、しばらく機能しませんのでご注意ください。

〈時刻・気圧表示内の気圧グラフ〉



左端のグラフが表示されるまでに24～30時間かかります。これは24時間前の気圧値と比較したデータを６時間毎に表示するためで故障ではありません。
よって気圧グラフが右端まですべて表示されるまでには、６日間以上かかることになります。

〈気圧傾向表示について〉

最初に表示されるのは、まん中の気圧変化なしに表示です。
実際に気圧の変化傾向を表示できるまでに12時間はかかるとお考えください。気圧変化の度合いによっても多少異なります。

■お取扱いにあたって

		洗顔や雨など一時的にかかる水滴。	水泳や水仕事など長時間水にふれる場合	空気ボンベを使用しないスキンダイビング	空気ボンベを使用する本格的な潜水。	水滴がついた状態での操作。
非　防　水	ケースの裏にWATER RESISTANTの表示のない時計	×	×	×	×	×
日常生活用防水	ケースの裏にWATER RESISTANTの表示のある時計	○	×	×	×	×
日常生活用	5気圧防水	○	○	×	×	○
強化防水	10・15・20気圧防水	○	○	○	×	○

ケースの裏にWATER RESISTANT5・10・15・20 BARか、WATER RESIST Ⓐマークの表示のある時計

※非防水の場合、水や多量の汗にご注意ください。万一水や汗でぬれた場合には電池の良い布などで水分をとり除いてください。
※時計の内部にも多少の湿気がありますので、外気が時計内部の温度より低い場合ないにはガラス面がくもる場合があります。
くもりが長時間消えない時はお買い上げ店またはアルバ取扱店にご相談ください。

ショック ○

軽スポーツによる影響はありません。
※ただし、落としたり強くぶつけたり、しないでください。

磁気 ○　×

磁気の影響はありません。（計時機能）ただし、圧力センサーは、強い磁界に対して一時的に影響を受けることがありますので、ご注意ください。

温度

この時計は常温（５℃~35℃の範囲内）で腕につけた時に安定した精度が得られるように調整してあります。

直射日光が長時間あたったり、高温になる所に置かないでください。
寒い所に長く置かないでください。

※多少の進み遅れが生ずることがあります。
常温にもどればもとの精度にもどります。
※－５℃以下、＋50℃以上の温度下で長時間放置しますと、止まりの原因になったり、電池が漏液したり、電池寿命が短くなることがありますので、ご注意ください。

■長くご愛用いただくために

点検のおすすめ

電池交換時または２～３年に１度の点検をおすすめします。保油状態・漏液の有無・汗や水分浸入の有無などを、お買い上げ店またはアルバ取扱店で点検してもらってください。
点検の結果によっては、分解掃除を必要とする場合があります。
※その時にパッキンやバネ棒の交換をご依頼ください。
※部品交換のときは「純正部品」とご指定ください。

ケース・バンドのお手入れ

ケース、バンドについた汚れや水分はサビの原因になりますので、柔らかい吸湿性の良い布などでふき取ってください。
ケース、バンドは肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れたままにしておきますとサビて、衣服の袖口を汚したり、皮ふの弱い方は、かぶれたりする場合がありますので常に清潔にしてご使用ください。

バンドは多少余裕をもたせ通気性を良くしてご使用ください。特に金属バンドについては、時々柔らかい歯ブラシ等を使い石けん水で部分洗いなどのお手入れをお願いします。
※その際、時計本体には決して水がかからないようにご注意ください。

水銀

水銀（体温計を破損した場合など）、化学薬品、ガスなどに触れるとケース、バンド、文字板などが変色する場合がありますのでご注意ください。

薬品

〈プラスチックケースの場合〉
ケースの材料として、プラスチックを使用しておりますのでアルコール、ガソリン等の溶剤類、化粧品などのスプレー液また、クリーナー類、接着剤および塗料類が付着しますと、化学作用により、ケース、バンドなどの変色、劣化や破損の原因となることがありますので十分ご注意ください。

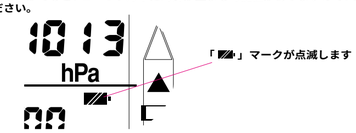
静電気

時計に使われているIC（集積回路）は静電気に弱い性質をもっています。強い静電気を受けた場合は、表示が狂うことがありますので、ご注意ください。特にテレビ画面からは強い静電気が出ておりますので、ご注意ください。

■電池についてのお願いとご注意

電池寿命
この時計は、新しい正常な電池を組み込んだ場合、その後約３年作動します。
※ただし、アラーム１日20秒、ランプ１日５秒、水深・水温計測を１回１時間使用で年50回を基本としていますので、それ以上使用した場合は、３年に満たないうちに電池寿命が切れることがあります。
※この時計には、工場出荷時に時計の機能を点検し、性能を検査するために使用した電池（モニター電池－機能検査用電池）が組み込まれていますので、お買上げ後３年に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。
※電池寿命が切れた場合は、保証期間内であっても電池交換は有料となります。

電池寿命切れ予告機能
・下図のような表示がでると、２～３ケ月中に時計が止まる可能性がありますので、お早めに電池交換をしてください。



［ご注意］このマーク点滅中でも時刻および気圧（水深を含む）と温度の計測は正確です。

・さらに電池寿命切れに近づくと、「▰」が点灯に変わります。２～３日中に時計が止まる可能性がありますので、お早めに電池交換をしてください。

水深水温計測の中止について
マークが点灯に変わると、水深・水温計測は中止します。よって「水深水温計測表示」に切替た場合、下図の表示になります。

［ご注意］
気圧計測は引き続き行いますが、使用環境によっては、気圧の計測に影響が出る場合があります。

電池交換にあたって

この時計は、電池交換する時や、電池寿命が切れた場合、それまで記憶していたデータが消去されますので、あらかじめ保存しておきたいデータは書き写しておくことをおすすめします。
☆影響を受けるデータは次の項目です。
①最大深度・潜水メモの内容がすべて消去されます。
②気圧調整は、調整値が「０」になります。

電池交換は必ずお買い上げ店、またはアルバ取扱店で「アルバ専用電池」とご指定の上、ご用命ください。
※時計から電池をとりだした場合、電池は幼児の手が届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合には、ただちに医師とご相談ください。